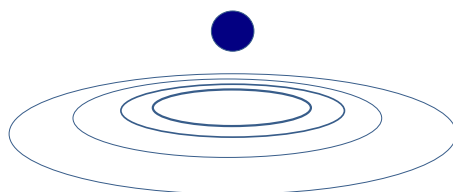


PSW シンポジウム

「PSW は、いま、何を求められているのか」

精神科入院制度改正を見据え、精神保健福祉士の職務を問い直す



日時：2012年12月15日（土）

14:00～17:00（開場：13:30）

会場：大阪府社会福祉会館 5階ホール（定員150名）

主催：PSW シンポジウム実行委員会

共催：認定NPO大阪精神医療人権センター

後援：社団法人日本精神保健福祉士協会

大阪精神保健福祉士協会

京都精神保健福祉士協会

滋賀県精神保健福祉士会

兵庫県精神保健福祉士協会

和歌山県精神医学ソーシャルワーカー協会

奈良県精神科ソーシャルワーカー協会

参加費：500円

お申し込み方法： ※Eメールのみ

Eメールにて下記のメールアドレスに、お名前（ふりがな）、ご所属を記載の上、事前にお申し込みください（携帯端末からも可能ですが、返信が届かないこともあります）。

psw.symposium@gmail.com

（PSW シンポジウム実行委員会 事務局）



「PSWは何をしてきたのか、 PSWは何に直面しているのか、 PSWは何を求められているのか」

PSW シンポジウムの開催にあたって

わが国では今、医療保護入院制度における保護者義務の削除に向けて検討が進み、精神医療審査会制度の見直しや代弁者制度の創設を含む、新たな入院制度がつくられようとしています。厚生労働省「保護者制度・入院制度の検討に係る作業チーム」では、抜本的な改善を模索する検討が重ねられ、6月28日に「入院制度の議論の整理」が公表されました。改善に向けて多くの提案がなされる中で、非自発的入院の在り方そのものを改めて問い直すことが求められています。

新たな入院制度の議論の中で、「精神保健福祉士」という職種は「同意」、「関与」、「代弁」、「支援」など、多様な役割を期待され、その職種の目指す方向が社会的に問われています。これは制度設計の重要な鍵を握っている職種だと言っても過言ではありません。そこには制度が抱えている問題、葛藤、矛盾、無理などを丸投げされ、引き受けることになりかねない危うさも見え隠れします。

「PSWは、いま、何を求められているのか」という問いを出発点に、多様な立場の視点からPSWを問い直す、新たな制度設計に向けた議論の場として、PSW シンポジウムを開催します。

PSW シンポジウム実行委員会

5人のシンポジスト

<p>精神保健福祉士の視点から 荒田 寛さん 精神保健福祉士・ 龍谷大学 教授 精神科病院 PSW、国立精神神経センター精神保健研究所・社会福祉研究室長を経て現職。精神保健福祉士の国家資格化に関与。 日本精神保健福祉士協会相談役。</p>	<p>精神科病院 PSW の視点から 柏木 一恵さん 精神保健福祉士・ 浅香山病院 医療福祉相談室 室長 浅香山病院にてPSWとして長年従事。 日本精神保健福祉士協会会長。</p>	<p>行政機関 PSW の視点から 小出 保廣さん 精神保健福祉士・ 堺市ちねが丘保健センター 精神保健相談員 堺市の行政機関でPSWとして長年従事。日本精神保健福祉士協会、倫理綱領の策定に関与。 大阪精神保健福祉士協会副会長。</p>
<p>医療と社会の視点から 原 昌平さん ジャーナリスト・ 読売新聞大阪本社 編集委員 医療問題や貧困問題の取材報道にあたり、大和川病院・箕面ヶ丘病院などの実態と背景を追及。 中公新書『大事典 これぞわかる！医療のしくみ』編著。</p>	<p>入院患者の視点から 山本 深雪さん 精神医療ユーザー・ 大阪精神医療人権センター 事務局長 精神科入院患者の面会相談、病院訪問を中心に活動。 大阪精神障害者連絡会（ぼちぼちくらぶ）代表。</p>	<p>コーディネーター 吉池 毅志 精神保健福祉士・ 大阪人間科学大学 准教授 PSW シンポジウム実行委員会</p>